

運営推進会議開催報告書

事業所名 グループホームねこの手

開催日時 令和 3年 3月25日(木) 13時30分～14時00分

参加者

利用者	0名	利用者家族	1名	地域代表者(民生委員含む)	2名
市職員	1名	地域包括支援センター職員	1名	薬剤師	1名
事業所	3名				

会議録

議題

1、入居者状況報告

- 1月 入居者7名(女性) 平均介護度 3.5
介護度別利用者数については別紙参照
1/23 要介護3 男性 84歳 すこやか荘より入居
- 2月 入居者8名(男性1名)(女性7名) 平均介護度 3.5
要介護3 男性 転倒により2/7陶生病院入院～2/27退院
介護度別利用者数については別紙参照

2、行事 1月 お楽しみ会 ぜんざいとお抹茶(入居者様に抹茶を立てていただく)

- 2月 節分・豆まき(円に座り中心にいる鬼に向けて豆に見立てたカラーボールを投げつける)
甘納豆とコーヒーを召し上がる。

3、その他 身体拘束適正化委員会について

R3年3月19日合同カンファレンス後、身体拘束適正化委員会を開催し下記の議題について
参加者：管理者 看護師 介護スタッフ5名 計7名

- 議題 1. スピーチロックについて
2. 転倒リスクが高く見守りが手薄になった時に独歩し転倒、骨折に至りその後も転倒を繰り返す入居者に対しどの様に安全確保をするかを検討する。

検討内容

1. スピーチロックについて
お互い注意はするものの、業務が多忙となりスタッフに余裕がなくなると入居者様に対し
制止に近い会話が聞かれることがある。その都度注意し合い基本に立ち返り関わって
いくことを徹底する。
2. 転倒リスクが高く、見守りが手薄になる夜勤帯に転倒し大腿骨頸部骨折に至った入居者様に
対し転倒防止策を講じるための検討を行った。

利用者情報

O.K様 男性 84歳 介護度3
令和3年1月23日 ねこの手入所 利用開始時はシルバーカー移動、要見守り
同2月6日 早朝覚醒あり。再入眠できないため、ホールに誘導し、椅子に座って見守りを行っていた。夜勤者が他利用者のトイレ介助でその場を離れる間、O.K様が自ら立ち上がり歩行し、数歩歩いたところで転倒した。右臀部から大腿部にかけて痛みあり。翌日、骨折疑いで救急搬送した。病院で、右大腿骨転子部骨折と診断され、手術目的の入院加療となった。
約3週間後に退院し、ねこの手に戻った。排泄はポータブルトイレ、移動は車椅子。自分で動くため、転倒リスクあり。同3月14日 夜勤帯、ホールでO.K様の見守りを行っていた。他入居者のトイレ介助時、見守りが手薄になった際、自ら立ち上がり、転倒。手指に擦過傷を負った。前回と同様の状況での転倒受傷。今後繰り返さないための転倒防止策を検討した。
転倒防止策として、日中・夜間の見守りを強化。職員が1人になる時は、必ず職員の視界に入るところに移動して頂くように対応する。

運営推進会議にて身体拘束適正化委員会での検討内容を報告し、メンバーより、
・質問を頂く。

家族代表 より 特に意見・質問はありませんでした。

民生委員 より 特に意見・質問はありませんでした。

市職員 より 日中、夜間の身体の動きや変化を専門職に意見を求めてみる。
誘導の声かけを統一してみる等意見を頂く。

包括 より 特に意見・質問はありませんでした。

薬剤師 より 心は痛むがリスクをなくすことが大事。車のシートベルトと同じではないのか？
ベルトをつけると安全なのか？と質問を頂く。

・ベルトの詳細を説明し、安全性については本人に危機管理がない為、突然の立ち
上がりを防ぐことができる旨をお伝えする。

事業所の対応 身体拘束は行わない事を第一に考え入所者への負担を軽減できるよう対策を講じている。
しかし今後も転倒の可能性が高いことから、ご家族へ状況を説明し、職員の見守りが十分に
できない時に限り、車椅子で安全ベルトを一時的に使用し、転倒防止をする方法もあることも
伝えてご家族の意向を確認していく事とした。